

1. はじめに

■神奈川県道路を取りまく背景

- 神奈川県は、日本を代表する港湾を有する横浜市、産業技術が集積する川崎市を擁しており、人・モノ・車が集中しています。一方で、箱根や丹沢などの山間部から江ノ島を代表とする湘南海岸などの海岸部まで自然豊かな地域が広がり、日本の縮図的な特徴を持ちあわせているといえます。このため、物流を主とする経済活動はもとより、観光等を目的とした移動交通まで、幅広い活動が道路交通に大きく依存しています。
- しかし、県内では道路整備が不足しており、交通渋滞を招き、輸送の効率性や移動の快適性などを低下させるとともに、交通事故の多発や大気汚染等環境への負荷といった問題が発生しています。
- また、これまでの道路行政は、主に自動車を意識したものであり、これからは、自転車、歩行者等の視点から見た展開も重要となってきています。

■成果志向への転換

今後の道路行政においては、「道路行政マネジメント研究会※」が公表した提言を踏まえ、「**毎年度、成果目標を設定し、この達成度を把握・評価**しながら毎年度のマネジメントサイクルを確立する」ことを目標とします。

具体的には、道路施策・事業の必要性や妥当性を、数値による目に見える形の**成果指標**を用いた業績評価を行うことで、わかりやすく説明します。また、その結果を公表するとともに、今後の事業計画に反映していく新たな道路行政マネジメントシステムを導入していきます。

※道路行政マネジメント研究会：成果志向の新たな道路行政マネジメントのあり方について検討するために、平成15年3月に設置された国土交通省道路局長の私的研究会。

■「道路行政の業績計画書」の策定

<策定の目標>

- 神奈川県域においては、道路整備における事業成果の考え方や具体的な指標などについて検討し、神奈川県道路協議会（神奈川県、横浜市、川崎市、国土交通省、日本道路公団、首都高速道路公団）において、本計画書「平成16年度神奈川のみちづくり業績計画書」を策定しました。
- この計画書は、県域における道路交通の問題点を分析し、事業の成果を表す「成果指標」について例示的にまとめたもので、今後この指標に基づき効果的な道路整備の実現に取り組んでいきます。また、**県民の皆様からの評価を受けることで、より透明性・客観性の高い効果的・効率的な施策・事業の展開を図る**ことを目的としています。本年度は計画策定初年度であり、関係機関の連携強化を図りながら、県民の皆様のご意見を十分に取り入れるよう努力をして参ります。

<次年度以降>

次年度以降は、成果目標に対する達成度の評価を「達成度報告書」において報告し、その結果を行政運営に反映していきます。

